



〓 禅語に学ぶ〓

絶好調な時こそ冷静に

新しい年が始まりました。皆さまにお

かれましては、本年も良い年でありますよう、心よりお祈り申しあげます。

子どもの頃の私にとって、新年を迎えることは一年を通して大変待ち望んでいたことでした。それは勿論、家族や親族からお年玉が頂けるからです。

しかし、有り難く頂いたお年玉も、親の忠告を聞かず調子に乗って使い込んでしまい、心の底から絶望したことがあります。それも今となっては良い教訓です。このような経験は、決して私だけではないと思っています。

お年玉のみならず、様々なことにおいて「調子に乗っていたら痛い目を見た」という経験をされた方がいらっしやると存じます。

そこで今回は、絶好調の時こそ冷静になれるような禅語を紹介させて頂きます。

勢不可使尽

(勢い使い尽くすべからず)

この禅語は、宋代の僧である五祖法演ごそほつえん禅師が、弟子の圓悟克勤えんごくきん禅師が住職になる際に与えた「法演の四戒しかい」の一つ、「勢い使い尽くさば、禍わざわい必ず至る」からきています。

調子に乗り、周囲の助言も聞かず自分が正しいと突っ走っていると、必ず悪いことが起こるぞ、ということなのです。

「なぜか調子が良い」や「自分の思い通りにことが進んでいく」、そんな勢いがのりにのっているとき、個人の人生であっても企業であっても、そのままの勢いに任せて突っ走っていきたくなるものです。

失敗したときや悪い出来事が起こったときは、反省したり慎重に行動したりするのは当たり前のことですが、順調に物事が進んでいるときは、前に進むことは

かり考え、今の自分自身に目を向けることが出来にくくなってしまう。

「勢不可使尽」という禅語は、絶好調な時こそ冷静に、周囲の意見に耳を傾け、自分自身を見つめ直させてくれる言葉なのです。

この一年を通し、何回か絶好調な日があるかと思えます。絶好調の勢いに乗ることも必要かもしれませんが、時には今回の禅語を思い出し、絶好調でも慎重にことを運ばれてみてはいかがでしょうか。

(禅福 尚玄)

